

宗門改帳からみる山陰の近世社会

2004-06 年度島根大学法文学部山陰研究プロジェクト 0404

宗門改帳データベースによる出雲・石見地域の生活様式の比較史研究

研究報告書

2006 年 3 月 1 日

山陰宗門改帳研究会

はしがき

本報告書は 2004-06 年度島根大学法文学部山陰研究プロジェクト 0404「宗門改帳データベースによる出雲・石見地域の生活様式の比較史研究」の 2005 年度までの研究活動の成果をまとめたものである。

本研究の特徴は島根大学附属図書館に所蔵された熊谷家文書中の宗門改帳を中心として、山陰地域に数多く保存されてきた宗門改帳を探索し、整理、解読、電子化してデータベース化し共同利用することを軸として、多面的総合的な研究を行うところにある。

宗門改帳は江戸時代の各村の各人を記録したものであり、これによって当時の人びとの生活の様々な側面を知ることができる。宗門改帳は島根県内においてかなり存在していることが知られているが、個人宅や市町村役場、図書館に分散し、一部を除き電子化されておらず、体系的な利用は極めて難しい状況にある。これをデータベース化するには、資料収集、解読、電子化、集計などにおいて、多分野の専門家による共同研究作業が必要であり、多大の人力と経費を要する。また、他方、宗門改帳を利用した研究のためには、当時の村の産業や生活に関する別の資料による研究とともにとりくむことが重要である。

本研究はこの宗門改帳のデータベース作りの作業に共同で取り組むとともに、できあがったデータベースを順次、用いて研究し、また、これと並行して、当時の村の産業や生活を別の資料による研究を進め、江戸時代の人名・用字、人口・家族、産業、宗教など多くの側面から江戸時代の石見・出雲地域の社会の仕組みを明らかにしようとするものである。

以上のような石見・出雲の江戸時代社会の復元研究はまだ中間段階にあるが、来年度の研究を経て、多くの研究者による批判を仰ぐとともに、石見銀山など各地域の歴史文化遺産を活用する事業の一助となることを期待している。また、本研究において作成される宗門改帳データベースは山陰研究センターなどで一定の条件のもとで研究や教育に広く利用可能になるよう努力したい。

研究代表 島根大学法文学部山陰研究センター

廣嶋清志

2006 年 3 月 1 日

研究組織

廣嶋清志	島根大学法文学部・教授	人口学（研究代表）
田籠 博	島根大学法文学部・教授	国語史学
小林准士	島根大学法文学部・助教授	日本近世史学
相良英輔	島根大学教育学部・教授	産業歴史学
山崎 亮	島根大学教育学部・教授	宗教学
伊藤康宏	島根大学生物資源科学・助教授	漁村歴史学
鳥谷智文	松江工業高等専門学校・助教授	日本歴史学
仲野義文	石見銀山資料館・学芸員	日本歴史学

研究経費

2004 年度	60 万円
2005 年度	60 万円

目 次

はしがき	廣嶋清志	
第 1 章 江戸時代における銀山町の人口動向と社会構成について	仲野義文	1
第 2 章 大吉鋤の変遷と山内人口の様相	鳥谷智文	17
第 3 章 19 世紀櫻井家たたら山内の人口動態	相良英輔	33
第 4 章 東来海村の宗旨証拠帳から分かること	小林准士	35
第 5 章 数え年年齢を使った計算について	廣嶋清志	39
第 6 章 宗門別出生率の研究について	廣嶋清志	43
第 7 章 近代島根の中山間地の農家・農村経済 —島根県邑智郡 3 か村『農事調査報告書』を通して—	伊藤康宏	49
研究会記録		63
資料		
1 竹下家文書（宗門人別関係目録）		65
2 中村家文書		66
3 島根大学図書館熊谷家宗門改帳一覧		67
4 3 地域別村町位置図（熊谷家文書宗門改帳）		70